

「広島神楽」定期公演へようこそ！

※平成26年8月20日分代替公演

宮乃木神楽団 ～みやのきかぐらだん～（広島市安佐北区）

出演団体のご紹介 公演日：平成27年3月18日

平成10年に、広島県広島市安佐北区飯室の野原八幡神社を御祭神として設立しました。阿須那系八調子を源流とする、梶矢神楽団に師事を受けています。神楽とは何か？を考え、儀式舞、儀礼舞、能舞の流れをふまえ、先人たちの築き上げた心意気を学びたいと考えています。設立から15年を迎え、年間40回を超える出演依頼を頂き、感謝しております。今後とも芸を磨き、見る人の心に残る神楽、また足を運んで頂けるよう日々精進していきたいと思っております。

19:00～ 1演目 八衢(天孫降臨) ～やちまた(てんそんこうりん)～

この演目は天孫降臨の日本神話に基づき、神楽化したものです。「八衢(やちまた)」とは天上界で道が多方面に分かれたところ。天孫(てんそん)、邇邇芸命(ににぎのみこと)が天降りしようとする、この八衢に天地を照らす神がいたので、天の宇津女命(あめのうずめのみこと)に誰かと問わせると、その神は猿田彦神(さるとひこのかみ)といい、天孫を先導するために出迎えていると言います。そこで、天の宇津女命は携えていた天の広矛(あめのひろほこ)を渡し、それを振って魔払いをしながら先導することを依頼します。豊葦原の中津国(とよあしはらのなかつくに=日本神話では日本の国土と考えられる)では天の忍日命(あめのおしひのみこと)、天津久米命(あまつくめのみこと)も同意して筑紫の日向・高千穂に降り立つという物語です。



20:00～ 2演目 八岐大蛇 ～やまたのおろち～

出雲の国に暮らす足名椎(あしなづち)・手名椎(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとり大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稻田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた須佐乃男命(すさのおのみこと)が通りかかり、その訳を聞きます。命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稻田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。



※記載の時間は目安です。前後する場合がございます。あらかじめご了承ください。

終演後(20:45頃～)交流会&記念撮影会を実施します。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

